【短報】本州におけるツヤナガホソツツキノコムシの採集例

ツヤナガホソツツキノコムシ *Orthocis ishiharai* Kawanabe, 1994 は，愛媛県久万高原町（旧･面河村）面河渓産の標本をもとに記載されたツツキノコムシ科の小甲虫である．原記載では，パラタイプ標本として四国産のほかに九州，対馬からもたらされた標本が扱われている．

筆者は，伊豆半島で本種を採集しているので報告する．

2exs., 静岡県伊豆市湯ヶ島猫越 , 20. XII. 2007, 筆者採集・保管.

照葉樹林内で枯れ木の樹皮下で越冬中と思われる個体を採集した．本州からはこれまで記録がなかったものと思われる．

図1．ツヤナガホソツツキノコムシ（伊豆半島産）．

本種を含む *Orthocis* 属は，硬質なサルノコシカケ類に穿孔するのではなく，軟質なキクラゲ類やスエヒロタケ，カビ類を摂食する (川那部 , 2004, 2006)．そのため，体形は円筒形を呈さず比較的扁平で，細い前脛節の外縁はなめらか，などのツツキノコムシ科らしからぬ特徴がある．また，各地に普通なマダラホソツツキノコムシ *O. ornatus* (Reitter, 1877) 以外はまとめて得にくいようである．ツヤナガホソツツキノコムシの生態的な情報は少ないが，四国においてはツガの枯れ枝のビーティングで採集されるという．

末筆ながら，当日，採集地に案内してくださった遠藤千秋氏（秦野市），本稿を草するにあたり，同定に関して助言をくださった川那部真博士（八王子市）に心よりお礼申し上げる．

引用文献

川那部真 , 2004. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 IV. 甲虫ニュース , (145): 1–5.

川那部真 , 2006. サルノコシカケの中の住人ツツキノコムシ . 丸山宗利編著 , 森と水辺の甲虫誌 , pp. 216–233, 東海大学出版会 .

Kawanabe, M., 1994. A new species of the genus *Orthocis* Casey from Japan (Coleoptera: Ciidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 20(3/4): 187–190.

（亀澤　洋　350-0825　川越市月吉町 32-17）

【短報】奥多摩でアイヌエンマムシを採集

アイヌエンマムシ *Merohister aino* (Lewis, 1884) は体長が 1 cm 近くあり，エンマムシとしては大型の種である．しかし，鳥類などの巣に依存するためか一般には得がたく，採集例はごく少ない．大原ら (2011) は, 北海道でトランクウィンドウトラップを実施して本種を複数採集し，その生態の一端を示している．

本種は北海道，本州から分布が知られ，本州からは青森，岩手，福島，栃木，群馬の各県から記録されている（Ôhara, 1992a, 1999; 金井 , 2010）．

筆者は東京都で本種を採集しているので報告する．

図1．アイヌエンマムシ(奥多摩町産).

1ex., 東京都西多摩郡奥多摩町倉沢谷（標高 800 m 付近）, 14. V. 2011, 筆者採集・保管 .

東京都初記録．これまでの生息情報は北関東以北に限られていたため，現時点での分布の最南記録にあたる．道路上を低く飛翔していた．周辺は広葉樹の二次林で，スギ植林とも近接している樹林環境だった．

分布域が重なる同属種エンマムシ *Merohister jekeli* (Malseul, 1857) とは，実体顕微鏡下では頭部の前頭条の内側前方に粗い点刻をもつことで容易に区別されるが（Ôhara, 1992b），前種とは異なり，中脛節，後脛節もきわだって扁平になるため，肉眼でも混同されることはない．

末筆ながら，本種の分布情報について教えてくださった大原昌宏博士（北海道大学総合博物館）にお礼を申し上げる．

引用文献

金井直樹 , 2010. 八坂允コレクションの甲虫 - その 2-. 乱舞 , (19): 42-92.

Ôhara, M., 1992a. A revision of the genus *Merohister* from Japan (Coleoptera, Histeridae), Part 1. Japanese Journal of Entomology, 60(2): 377–389.

Ôhara, M., 1992b. A revision of the genus *Merohister* from Japan (Coleoptera, Histeridae), Part 2. Japanese Journal of Entomology, 60(3): 495–501.

Ôhara, M., 1999. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). Supplementum 1. Insecta Matsumurana,

New Series, 55: 75–132.
大原昌宏・上田明良・尾崎研一・佐山勝彦 , 2011. トランクウィンドウトラップで採集されたエンマムシ類 . さやばねニューシリーズ , (3): 8–12.

（亀澤　洋　350-0825　川越市月吉町 32-17）

【短報】東京都でムネクボスジホソカタムシを採集

ムネクボスジホソカタムシ *Ascetoderes takeii* (Nakane, 1968) はムキヒゲホソカタムシ科に所属する甲虫で，本州からのみ知られる稀種である．タイプ産地は群馬県沼田市で，ほかに栃木県（稲泉 , 1984；川那部ら , 2002），岐阜県（鳥飼 , 1974），長野県（秋田 , 2009；青木 , 2010）などから散発的に記録されている．

筆者は，東京都において本種を採集しているので報告する．

1ex., 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山～人形山(標高 1,000-1,100 m), 13. X. 2011, 筆者採集•保管 .

尾根部のブナ，ミズナラを主体とした森林内の，広葉樹（樹種不明）の立ち枯れの樹皮下から新しい死骸を見いだした．写真に示したように，樹皮がほとんど落ちた胸高直径 25 cm ほどの硬く枯れた立ち枯れで，高さ 150 cm ほどの部分にわずかに残った樹皮下から見つかった．立ち枯れ表面には木材穿孔性の甲虫ないしは膜翅目のものと考えられる脱出孔が少なくなかった．

ムキヒゲホソカタムシ科は捕食習性をもつものが多く（Ślipiński *et al*., 2010），近縁属で判明している生態から類推すると，本種もほかの食材性の昆虫を捕食しているものと想像される．小笠原諸島に生息する同属種オガサワラスジホソカタムシ *Ascetoderes popei* Nakane, 1978 は珍しい種ではないが，筆者はカミキリムシ科幼虫の坑道の末端にカミキリムシの幼虫は見いだせずに，そこで静止する未成熟な個体を確認したこともある（未発表）．

本種の記録はこれまでのところきわめて少なく，コナラ樹洞内の堆積物中の木片内やミズナラ立ち木上，フジの枯れ木のビーティングなどで得られているが，枯れ木の内部深くに潜んでいるため一般には採集されにくいと考えられる．

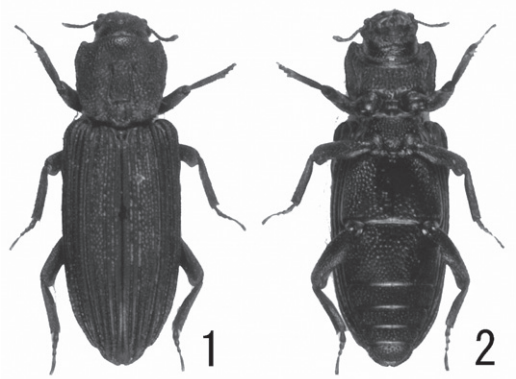

図1–2．ムネクボスジホソカタムシ，奥多摩町産．（1：背面，2：腹面）．

図3．ムネクボスジホソカタムシが見つかった立ち枯れ．

引用文献

秋田勝己 , 2009. ムネクボスジホソカタムシを長野県で採集 . 甲虫ニュース , (168): 13.
青木淳一 , 2010. ホソカタムシ雑記 (III) . 甲虫ニュース , (172): 25–26.
稲泉三丸 , 1984. 栃木県産甲虫分布資料 . インセクト , 35(2): 60.
川那部真・酒井雅博・久松定成・安藤清志 , 2002. 那須御用邸のヒラタムシ上科およびゴミムシダマシ上科甲虫類．p. 123–134．栃木県立博物館研究報告書 , 那須御用邸の動植物相 .
Nakane, T., 1968. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXVI. Fragmenta Coleopterologica (18/19): 73–76.
Ślipiński, A., N. Lord and J. F. Lawrence, 2010. Bothrideridae Erichson, 1845. Leschen, R. A. B., R. G. Beutel and J. F. Lawrence eds., Handbook of Zoology, Coleoptera, Beetles Vol. 2 : Morphology and Systematics (Elateroidea, Bostrichiformia, Cucujiformia partim). pp. 411–422, de Gruyter.
鳥飼兵治 , 1974. 飛騨高地の鞘翅目について . pp. 190–206. 岐阜県高等学校生物教育研究会編 , 岐阜県の動物 , 大衆書房 .

（亀澤　洋　350-0825　川越市月吉町 32-17）